

一般廃棄物処理基本計画改定 第2回専門部会
平成27年3月16日
参考資料2

**神戸市一般廃棄物処理基本計画改定に係る第1回専門部会
議事録**

【開催概要】

※下線部分は【論点整理】該当箇所

日時	平成26年12月8日（月）15時～17時
場所	神戸市環境局研修会館

【議事（1）正副部会長の選出について】

- 専門部会の委員について、平成26年11月19日に開催された第41回神戸市環境保全審議会において、盛岡会長から指名があり、承認された旨の報告
- 委員の紹介
- 「神戸市環境保全審議会の運営について」に基づき、部会長及び副部会長を、専門部会の互選によって定める
- 「中野委員を部会長に、藤原委員を副部会長に」との推薦があり、異議無く承認された。
- 部会長、副部会長就任あいさつ
- 中野会長

神戸市では平成23年4月から家庭系ごみの容器包装プラスチックの分別収集全市実施、その他プラスチックの燃えるごみへの移行など、大きな変化があったわけですが、それ以降もそれほど問題が起こっているわけではないと思うのですが、引き続きリデュース・リユースですね。今日このリユースびんが象徴的に使われているわけですが、④リデュース・リユース、2Rをどのような形でどういうふうに進めるのかというのが、それほど具体化されていない。もう少し頑張るといえることですね。

それと細かいことで申しますと、⑥容器包装プラスチックの分別収集が始まっていますが、これにつきまして必ずしもきちんと理解されているわけではないと思いますので、もう少しきちんと理解していただくために、頑張らないといけないと思いますし。

⑩指定袋制につきまして実施されているとはいえ、まだ今でも有料化と誤解している人がいる、正しく理解されていないというところがあります。

わたしは神戸市を愛する者として、今回の資料を見せていただきまして、家庭系ごみが大阪市に負けているというのがすごくカチンとくることですので。そうなんですよ皆さん、大阪市に負けているので、もっと努力の必要があるのかなと思っています。

今回の改定につきましても、より前に進めるように、皆さんの知恵を出していただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

- 藤原副部会長
- ちょうど三年前に同じように基本計画の改定のときに、この会のほうで審議させていただきました。その時に「もったいないで築く循環型都市こうべ」というキャッチフレーズができたわけですが、この「もったいない」というのは日本の特徴である、これを大切にしたいということで、つきました。⑨この三年間にこの「もったいない」がどこまで進んだのか、というところに非常に興味がございます。

ちょうどその時に、「協働と参画」という言葉も出てまいりまして、行政と市民が一緒になってごみの減量化を進めるというようなことがございました。

そういうことで、⑥「もったいない」ということが市民にどれだけ浸透したか、そして市民の方は⑦もっと「もったいない」を進めていけるのかどうかというところを話をして、これから三年、五年というふうな先の政策というものを、ぜひここで作り上げていくということになればいいなと思っております。

中野部会長を支える立場で一生懸命やらせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【議事（2）神戸市一般廃棄物処理基本計画の改定について（部会の位置づけと範囲、改定の手順）】

- 事務局 （資料説明）資料1、資料1-2、資料2、資料2-2
- 中野部会長 ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問等ありましたらよろしく願いいたします。
- 小島委員 すみません、ひとつ分からないところが。（資料1）5ページの表2でごみの発生量がかなり減っているのですけれども、処理量が減るのは分かるのですが、⑧発生量が減った原因というのはどういうふうにご覧いただいているのでしょうか。
- 事務局 発生量が減っている原因ということですが、処理量に非常に連動した形にはなっています。これは少し難しいところで、どこまでごみを行政が把握できているというのが課題としてございまして。今も例えば店頭の回収であるとか資源集団回収の量とか、減り始めた頃ぐらいから把握するようにしているのですけれども、それ以前というのは（「処理量」は）行政が処理している量ということでした。基本は発生量も減っていますし、処理量も減っているということですが、「どこにいったのか」ということでしたけれども、そもそもの発生が減っているという理解をしています。
- 事務局 補足といいますか、ごみ、我々一般廃棄物の世界でお話させていただいているのですけれども、この時は指定袋であったりとかを導入させていただいて、追いかけることができないごみって何だろうなというところと産廃ということも考えられるので、ひょっとしていくらかの要因として（従前は）産廃の混入があったのかという分析はしたことはあるのですが。あとは先ほど申し上げましたように、なくなったごみがどこへ行ったのかという追跡はできていないです。
- 小島委員 ありがとうございます。
- 中野部会長 何か質問は他にないでしょうか。そうしましたら、今回は初回ということもあり、この際ご参加の委員の皆様それぞれのお立場から、お考えや今お感じになっていることについてご意見をいただければと思うのですが。
- 大変恐縮に存じますが、お一人3~4分でお願したいのですが。先程ご発言いただきました小島委員さんは前回も委員としてご参加されておりましたよね。ですから経緯もご存知だと思いますので、いまご質問いただいたのですが、引き続き何か日頃感じられていらっしゃる事とか。非常に積極的に活動されていると思いますので、何か現在感想をお持ちでしたらご発言いただきたいと思います。
- 小島委員 すごく発生量も減っているので、すごいなというふうに思っています。それは他の都市に比べても、いま神戸市も上位にあがってきていますので、この調子でいろ

いろと減らしていければいいかなというふうに思っています。

○中野部会長 急に申し訳ないです。またあとからお感じになったことを追加でご意見いただければと思います。では順番に行きまして、後藤委員さん、自治会活動で日頃からお感じになっていることがございましたらよろしくお願ひいたします。

○後藤委員 自治会の方でいろいろやっているのですが、昔からずっと居る方は聞くのですけども、どんどん新しい人が入りまして、ごみの問題をやかましく言うのですけど、力を入れないとそのまま。何箇所かずっと見ましてもいろんなものが混ざっているんですよ。

やかましく言うのですけど、上の空みたいな。こちらが出すわけにもいかないの。自治会にもそんな方は参加しないのですよね。なんとかそれをいま考えているのですけど。

○中野部会長 ルールの問題ですよ。特にこのごみについてルールが守られていないとかありますか。

○後藤委員 ちはやっぱり下町ですから、昔からいる人はよく聞くのですけども、その方が高齢化して亡くなったりすると、次新しく入ってきましたら、決まった日に出すんやと言っても（決められた日以外でも平気で）出すし、その中にいろんなものが混ざってるのです。なかなかそこまでこちらが届きませんので、それが悩みの種です。

○中野部会長 ルールをよくご存知で定着していらっしゃる方が高齢になられて（亡くなった後に）、どんどん新しい方が増えて、あまりルールを守ってくれないということですね。

○後藤委員 あまりやかましくも言えませんし。そこが難しいんですね。

○中野部会長 ありがとうございます。玉田委員さんは婦人団体協議会のお立場から何か。日常的な、切実な問題をご存知だと思うのですが。

○玉田委員 婦人会の活動として、本当にごみステーションの管理という、監視役みたいな感じで皆さんやってらっしゃると思います。それと NPO でエコタウンまちづくりというのを活動しておりますので、ごみ・環境に関してはすごくいろいろとやっておりまして。わたしの地域でしたら、平成 12 年からワケトンカレンダーを作って全戸配布しているのですよ。もうそろそろ皆さんに行き渡ったかなと思って止めたら、どうしてやめたの？と。これを頼りに分別の日を。地域全体を書きますので。いつに何があるか、そして資源回収の小学校がいつだったか、を書いております。それを頼りにしていただいています。

北区から容器プラのモデル地域になった時に、Aランクと言われたので、すぐきれいにしないといけないと思って。そのきれいに個人差がありまして。すぐキレイに出すプラと、少し汚れていてもいいんだよとあとでそういう話を聞いたもので。やはり最初の A ランクというのがすごく頭に残っていて、汚いものはやはり燃えるごみに出してしまおうかなという方もあるということと。

あと、燃えないごみは確かに少なくなりましたが、バケツとかプラでも大きいものは燃えるごみになりましたよね。それがまだなかなか浸透しなくて、燃えないごみにいっぱい出されているというのが、現状かなと思います。

○中野部会長 プラスチックについては区分が分かりにくいというのがありますよね。非常に具体的なお話ありがとうございます。

○奈良山委員

続きまして、商店街連合会のお立場から奈良山委員さんよろしく申し上げます。
神戸市の商店街は100ほどあるのですけれども、ほとんどの商店の方は事業系のごみが多くあります。事業系のごみはスムーズに行ってるわけですが、

②商店街でも零細な方のお店もあります。お住まいになってご商売されている。
そうすると、事業系なのか家庭のごみなのかという問題から、いろいろ商店街の中でも、事業系ならお金を出して持って行ってもらうことができるのですけれども、そういうちょっとあやふやなところが非常に問題。

それと、②商店街も高層化しているところもありまして、上はアパートというか住居になっているわけですね。するとそれ（アパートの家庭系ごみ）は商店街の前へ出される。ごみのステーションの場所によって、商店街の中とは別の場所に遠方にステーションがあれば、なかなかそこまでもっていったらえないという問題がありますので。

商店街は事業系が多いので問題ないように見えてますけれども、かなり掘り下げていきますと問題があるのではないかと感じております。

そういうことでございますので、商店街のものが、自治会とも関係がございます。その自治会、特に都心の自治会については、ごみ出しについては非常に中心になって分別したりいろいろやって協力しながらごみを取っておられる方もおられるし、それからそういうことタッチなしにやっておられる方もいる訳です。

特にこの頃自治会・地域として困っていることは、個々の住宅の方については昔からおられる方ですので問題ないのですけれども、②都市の中心はマンションが増えてきている。そのマンションの方が地域に入ってこられて、ごみを出すことについては地域にご協力いただけないということで、わりかたきちんとやっているところにごみを乱雑にもってこられる方が多くあります。

都心は非常にマンションができたためにこれからは難しい問題が出てくるのではないかと感じております。

○中野部会長

ありがとうございます。かなり具体的な問題点をご指摘いただいたのですけれども、小規模店舗で家庭系に出されることもあるということとから、高層階が住居になっているものも増えていますし、自治会との関係がなかなか難しいということとか、マンションが増えているので地縁のない方が。

○奈良山委員

ステーションへ持ってくるか、何時までに持ってこなきゃいけないかといっても持ってこられない。今日も朝、地域の掃除に参加させていただいたのですけれども、熱心にやっておられる方が「マンションの方が協力的じゃないので苦労している」というお話を聞かせていただきました。

○中野部会長

はい、ではありがとうございます。

神戸商工会議所のお立場から、鳥越委員お願いいたします。

○鳥越委員

私、株式会社トーホーという企業に属しておりまして、主に食品スーパーを神戸市内では営んでおるわけですが、資料1、2ページに平成19年事業系ごみ袋有料化になっているのですが、経営者についてもこの辺りから事業系一般廃棄物として出している量は減ってきております。

ただ、減らすにしてもものには限界がありまして、どうしても毎日でてくる食品ごみはなかなか減らないというところもあります。うちのスーパーの人間から話を

聞きますと、ごみ袋が、処理量の関係もあるのでしょうかけれども、なかなか金額的に高いなというのが、正直日々話を聞くところではあります。うちのスーパーで働いている半分以上がパートさんということで、ご自宅にお帰りになれば主婦ということで、そういった方々のごみに対する意識は高いというのもありまして、ごみの分別並びに削減はできてはおるのですけれども、減らすにしても分別するにしても限界があるというところがあるので。

これから先、⑩有料化というのは止むを得ないというはあるのですけれども、ごみ袋の価格を安くしていただきたいというのは我々事業者としてはひとつ希望ではあります。

その一方で、減らすということがあるので、例えば今弊社が取り組んでいるのは神戸市様にご協力いただいて食品ごみのリサイクルというのを取り組んでおります。捨ててしまえばただのごみですけれども、リサイクル業者さんに引き取ってもらうことによって、肥料になるとか飼料になるとかということがありますので、そういったことに取り組む一方でごみを減らしていくということも取り組んでおるんですが、なにせごみ袋が高いなど。あまり申し上げると神戸市の皆様にご迷惑をおかけすると思うのですが、一般家庭のごみ袋の金額はあまり高いと感じませんけれども、事業系は正直結構な負担かと思っていますので、少し今後ご検討いただければ幸いかなと思っています。

○中野部会長

ありがとうございます。限界がある中、どうやって減らしていくかということと、有料化。金額を高くするというのではなく、要望はあったと。

食品リサイクルに取り組んでいらっしゃるということで、パートさんが多くて意識が高いということですね。参考になることだと思います。

ではコープこうべさんの寺下委員、お願いします。

○寺下委員

こんにちは、よろしくお願いします。コープこうべの寺下と申します。

コープこうべは事業もしながら活動もしているため、両方からお話させていただければと思います。まず事業のところでは、企画政策部統括部長と兼任で堆肥を作っているところのセンター長でもございまして、神戸市内の店舗から出てくる野菜くずと肉のくずを回収して堆肥を作り、それでリサイクルをするという取り組みをさせていただいております。

事業系の廃棄物というところになりますと、指定袋導入したときにできるだけリサイクルしたい、できるだけ袋を使いたくないというところもございまして、それまで紙ごみでは段ボールのリサイクルがメインだったのですけれども、紙箱とか様々な紙につきましても各店舗のほうでリサイクルをするという形で、できるだけ指定袋を使わないような取り組みをしております。

次に、新しく何かしようとしたときに厳しいなということが現状ございまして、⑩できればもっとリサイクルは進めたいのですけれども、やはりコストがかかることもありますので、神戸市さんというわけではないのですけれども、安価で回るような仕組みがあればいいのかなというのがあります。

食品リサイクルは自前でパッカーを有して回収し、自前で処理している立場で申しますと、何かトラブルがあると処理ができず、その時に他のルートでリサイクルしたくても、どうしても廃棄物処理法の様々な制約条件の中で、できないことが多

く事業者としては歯がゆいところかなと思っておりまして。

容器包装関係については、容器包装リサイクル法で今国の方で議論がありますけれども、⑦できるだけリサイクルを、店頭回収も、ということになろうかと思うのですけれども、一方では廃棄物として法律上の制約もありという中で、逆にやろうと思っ
ている事業者にはできるだけ制約条件をクリアに、やりやすいようにしても
らえるといろんな取り組みが進むのかなと思ったりもしています。

お店の方では、店頭リサイクルと、これは 91 年ぐらいからやっておりますけれども、2011 年度に品目も増やしまして、それまではペットボトルと発泡トレイとアルミ缶・スチール缶、牛乳パックというところだったのですけれども、技術が進んでいく中で容器メーカーさんもいろんなものがリサイクルできるということで、透明トレイとか卵パックも回収品目に加えて、店頭では 7 品目の回収ということでやっております。一定進んだのかなと、これ以上増やすと店頭のスペースもなくてしんどいなあというところもあるのですが。

これは神戸市内というよりも別の行政区内の店舗なのですが、高齢化をしていく⑧リサイクルのルールが高齢の方がよくわからないというのがありまして、分別が面倒臭くていろんなものをリサイクルボックスに入れられるという状況があるようでして、高齢化社会の中では頭を痛める悩みになっていくのかなと思ったりもしています。

もうひとつ、マイバッグでは 1995 年、コープこうべの場合は有料化しているという形にはなっていますけれども、結構歴史があるということで定着していると思うのですけれども、引越しシーズンになりますと県外から来られた場合にはお店でトラブルになったりということで、⑩リサイクルにしる、マイバッグにしる、継続的に普及啓発をしていかないと定着していかないのかなと思っております。

○中野部会長

ありがとうございました。すごく積極的に頑張っていらっしゃっただけに、次に何をやるかが難しいのと、法的な制約条件をやりやすいようにしてほしいということとか、高齢化というか社会動態に併せてどうするかというところですね。ありがとうございました。

藤原先生、よろしくお願ひします。

○藤原副部会長

鳥越委員の高いというところで、(資料 1) 4 ページの図を見ていただきまして、事業系ごみ排出量が平成 19 年に指定袋になりまして、⑬ごみ量が急に減った。それが維持されているということは、うまくいっているということだと思います。緑色の排出量の曲線ですが、急に減ってそれが維持されているということで、非常に上手くいっていると。上手くいっているのは指定袋が高いという意識が常にあって、ごみを減らさないとやっていけないということがあろうと思うのですが、その点、そういうのを維持していくためには価格の維持が必要なのかどうか。値段を緩めてしまうとこれ(排出量)がまた上がったりしないかどうか、というのをしっかり評価してから対応を考えないといけないというふうに思います。

それから家庭系のほうも、⑭平成 20 年度に指定袋をされまして、これも減量化の効果が大きかったということで、二つとも非常に良く効いているのだなというのがこの図から見とれます。こういったものを更に広げていくというか、もっと減らすには次どうすればいいのかと。非常に大きなイベントとして指定袋というものを

取り入れられたのですが、次の施策として更に減らすにはどうすればいいのかというのを、どこの自治体も悩んでいると思うのですが、そういうのを見つけられたらいいなと思います。

あと小島委員さんがおっしゃった、ごみ発生量が減ったと言うことですが、わたしもひとつ疑問がありまして、(資料1) 4ページの図の総ごみ排出量が50万トン、右の表の64万3千トン。これが資源ごみを含む総ごみ量ということは、総ごみ排出量と資源化量を足したものがごみ発生量になるのかなと思って計算したのですが、数字が合わない。総ごみ排出量と資源化量を足すと66万1千トンになる。ごみ発生量が若干低いので、①数字の整合がどうなっているのか知りたいというのがあります。今でなくても結構ですので、教えてください。

それで先程小島委員がおっしゃったように、本当にごみ発生量が下がっているなら、この資源化量がちゃんと把握できていないのではないかということですね。排出量はごみ処理のほうでちゃんと把握されていると思うので、資源化量がどこか数値がとれていないところがあるのが問題ではないかと思うので、将来の計画をする上で、数値をまず確認しなければいけないということと、今後この数値がどのように変わっていくかということ、いろんな経済の現在の変化のなかで予測をしなければいけない。特にアベノミクスの話がありますが、今後消費がどんどん上がっていきますとまた、ごみを出さないということは消費が減ってきたという一つの表れでもあったのですが、それが元に戻ってくる可能性もないわけではないので、②今後の経済によっては、各家庭の排出量が上がっていく可能性がありますので、そういうところも本当は考えないといけない。今後どうなっていくのかというのは弾力的に見ていかないといけない。

どう変わってもここまでもっていきましょう、という目標設定にしなければいけないのかなというふうに思います。今後の動向について何をどういう目標値にするのかということですね。

特に2Rのほうに重きを置くということは、資源化物を抜き取られた状態でごみが焼却炉のほうに行きますので、ごみの質がどう変わってくるのか、それによって焼却の安定性とかが影響を受けないかどうか、またごみの量も変化しますから③次の焼却施設の処理能力をどのように適正化しておくとか、総合的に遠い将来に向けての計画が必要だなと思っております。

○中野部会長

ありがとうございます。施策は不景気の時と一致していますので、これからどうなるかというのは難しいと思いますね。

黒坂先生、お願いします。

○黒坂委員

今回初めて参加させていただきましたので勉強になったのですが、専門が法律なのですが、事業系一般廃棄物がそもそも処理法上も取り扱いが問題になっておりまして、そういった議論は法的にはあるのですが、そちらは国の問題です。さておきまして、お話を聞いておりましたら、実務上も問題があるということ、をまず把握させていただきました。

そして、いろんな市民の皆様、市民の皆様といっても④いろんな市民の方がおられるというのが分かりましたので、その声をどのように拾い上げていくかが一番の課題で、今後アンケートやワケトンカフェをされる予定のようですが、そち

らのほうで生の声を、机上の空論にせず、どのように拾い上げていくか。

そして今後のことを考えると、今もされているようなのですけれども子どもに対しての教育、子どもが「お母さんきっちりやらなきゃだめよ」と言ったりもして、京都市ではいろいろされているように思いますし、いろんなイベントを開催したり、神戸市でもされているとは思いますが、今後の教育というところ。

そしてせっかく良い試みをして良い計画を作っても、どのように周知していくかというところまで考えて作っていく必要がある。

あともう一点は、高齢化の問題は避けられませんので、その辺りはどのように対処していくか、かなり難しい問題というふうにお聞きしました。

○中野部会長

ありがとうございました。

では先程、藤原委員と小島委員からご質問がありましたように、数値上で理解しにくいところがあるということですので、数値的なものを次回までにきちんと整理していただきまして。

それからただいま委員の皆様から出していただきましたご意見について、事務局の方で今後検討すべき項目として整理していただいて、次回、現状と課題の検証と併せて検討させていただきたいと思います。

それでは、この議題につきましてはここまでとさせていただきます、次の議題「市民・事業者の意見反映について」に移りたいと思います。資料3「市民・事業者の意見反映について」について事務局から説明をお願いいたします。

【議事（3）市民・事業者の意見反映について（アンケート実施等）】

○事務局

（資料説明）資料3、資料3-2、資料3-3、資料3-4、資料3-5

○中野部会長

はい、ありがとうございました。ただいまのアンケート調査についてなのですが、すでによく練っていただいていることと、返信が1月20日となっているので今日しかないということがあるのですけれども、何かご質問とかアンケートに対するご意見がありましたらよろしく願いいたします。

○藤原副部会長

資料3の4ページのところで、調査結果の事業者の主な意見の2番目「ごみ処理料金がビル管理費に含まれているため、ごみ排出量を減らすインセンティブが働かない」というこれなのですけど、指定袋制度というのは排出者と直にリンクしないと排出するという意識が働かないので、これはあまりよくないですね。ごみの特に料金が一括して管理費に含まれているので、どこまでがごみの料金でどこまでがその他の清掃費などかわからないので、ごみの減量化意識が働かないということであります。

これを解決するためには、ビルを借りている業者のほうで袋で出すようにしてもらうとか、管理会社のほうにその月に出たごみの袋代を割り振って課すとか、何か排出者にフィードバックされるような仕組みを作らないと、指定袋の趣旨から外れてしまうので、ぜひ良い解決策を考えていただいてそのように指導されるのがいいのではないかとこのように思います。

○中野部会長

ありがとうございました。そしたら今の藤原委員さんのご意見は、今後検討すべき課題の中に入れていただいて、検討課題に挙げていただくということで。

アンケート調査について、例えば処理料金がビルの管理費に含まれていますかな

ど聞く必要はあるでしょうか。

○藤原副部長 そういところがどのくらいあるのかという実態調査を、これで聞けるのであれば聞ければいいと思います。

○中野部会長 スペースの問題で可能かどうかわかりませんが、ごみ処理料金がビルの管理費に含まれていることがあるのかどうかを聞いてみるというのは。

○事務局 資料3-5のアンケート調査票の事業系のほうの2ページの間5をご覧くださいなのですが、(1)の設問で「あなたの事業所の年間のごみ処理費用を誰が把握していますか」というところで、4つめに「ごみ処理費は管理費に含まれているためわからない」という項目を設けてございまして、今、委員からご指摘あった内容を把握できるのではないかと考えてございまして。

○中野部会長 ここでこういうケースがどれくらいあるかというのを把握していただきまして、今後の検討課題とリンクさせて検討していくということで。ほかに何かご質問、ご意見ありましたらよろしくお願ひいたします。

○黒坂委員 念のための確認なのですが、事業者へのアンケートの項目で旧問7は削除ということで、これはあたりまえのことだから。ごみの処理責任ということですね。削除になっているのは周知の事実だからということでしょうか。

と言いますのは、別の市なのですが、産廃のほうだったのですが、あたりまえの排出事業者責任があるに関わらず、産廃の事業者にそういう責任があるのですよと聞いたら30何%の人が知らなかったというアンケートの結果が昔なのですがありまして。神戸市さんは平成21年度等にこちらを聞いていますのでおそらく大丈夫だとは思いますが、確認だけさせていただきたくて。

○中野部会長 ただいまのご意見は資料3-3ですか、A3の事業系ごみに関するアンケート調査の、左側の旧問7で「ごみの処理責任」を聞くところがあったのですが、今回はそれが削除されている。それはどうなるか。

○事務局 お答えいたします。ご指摘のとおり、前回認知度を確認しましたら、おおむね皆さん認知されているということが結果としてみられましたので、今回は敢えてそこは聞くことはないかなというところと、事業者責任そのものが今後の減量資源化に結び付きにくいという検討結果でしたので、今回は削除ということでさせていただいております。

○中野部会長 よろしいでしょうか。そうしましたら、先程、奈良山委員さんから小規模事業所の問題が、事業者責任を知らないということもあったので、これも検討課題の中で取り上げていただくということをお願いいたします。他にいかがでしょうか。

○藤原副部長 アンケートの家庭系ごみのほうの7ページに、年代、家族構成がございまして。このアンケート回答者の年代なのか、高齢者の世帯であれば世帯主の年代を書いてもらうのと両方あるのですが、回答者の年代を答えてもらうということでもよろしいでしょうか。確認です。

○事務局 お答えいたします。今回の回答者の想定としましては、個人あてにお送りいたしますので、その方がまずご回答いただければと思っておりますが、その方が普段まったくごみを扱ったり、ごみ出しをしていないという方につきましては、日頃家族の中でごみを扱ったり買い物されている方にお願ひしますという依頼をさせてい

ただいております。

年代につきましても、回答者の方の年代及びその方を中心とした家族構成をお答えいただくということにしております。

○中野部会長 アンケート調査をするとそこが大事になってきますよね。世帯の年代なのか答えてくれたあなたなのか、そこら辺なかなか難しいところがありますよね。

ご回答いただいた方にお尋ねしますということなのですね。大抵、世帯主に送っても奥様とかごみを扱ってらっしゃる方がお答えいただくことが多いと思いますね。大体、全体は掴めるのかなど。よろしいですか。

○藤原副部会長 要するに、趣旨で、①世代間で考え方が違うのがどうかとかそういうところを見るのであれば、世帯主の年代を書いたほうがいいし、あるいは両方質問しておく。最初にごみ出しする人に答えてくださいということになりますし、ごみを出す人がどう考えているのかということになりますので、そういう目的であれば、両方書いておけばいいかなど。

○中野部会長 これはいつもやった後で後悔することが多いので、もう一度よくお考えいただいて。他にいかがでしょうか。

○寺下委員 家庭系ごみ（資料3-4）の間7(1)なのですが、⑤古紙をどこに出すのかということで、出た結果を分析されるかどうかにも関わりますが、地域の資源集団回収以外のスーパーとか道端の回収ボックス、特に道端なのですが、東灘区・灘区辺りでは見たことがなくてですね。あと新聞販売店のルートがあるのかは存じ上げないのですが、このあたりはその方にどんな選択肢があるかによって影響される場所なので。特に道端の回収ボックスはかなり地域性があるのかなと思うのですが。単に傾向だけ知るということであればこのままで良いと思うのですが、地域の資源集団回収と比較されるのであれば、特に回収ボックスなり新聞販売店なりを、どこでやっているのかある程度情報がなければ分析が難しいのかなと思いましたが。一言申し上げたいなと思ひまして。

○中野部会長 ありがとうございます。道端の回収ボックスというのは、神戸市内に一般的にあるものなのですか。

○事務局 先程寺下委員のほうから言われましたけれども、やはり西区とか北区とかのエリアが多いですね。もうひとつの新聞販売店のほうは新聞社が販売店にお願いしてやっているのであまり取り組みに差はないのかなと思うのですが、先程言われた分というのは、また個人のお住まいが分かっていますので、集計の際に考慮させていただきたいと思ひます。

○中野部会長 そうですね。こういう仕組みがあるエリアとか、新聞販売店に引き取ってもらうというのは選択肢としてあるのかとか、そこら辺を集計するときには今後につながるような分析の仕方をお願いしたいと思います。他に何か。

○玉田委員 質問なのですが、資源回収というのは各戸回収も入っているのですかね。

○事務局 そうです。両方入っています。

○中野部会長 では無いようですので、ただいまいただきましたご意見を必要であれば調査票に反映していただくということを事務局で検討させていただきたいと思ひます。必要に応じて修正などを追って皆様に確認していただいた後、アンケート調査を実施していただくということによろしいでしょうか、皆様。ではそういうことによろしくお

願います。

では非常に短時間で活発な意見をいただきましてありがとうございました。本日予定しておりました議事は以上ですが、今後の検討にあたり何か言い忘れたことがありましたらご発言ください。

○小島委員

さっきのアンケートの件で一点だけ質問なのですけれども、これは神戸市民のリサイクルとか分別に対する実施度の把握という理解で良かったのか。今日の中でいろんなご意見を聞いていると、③関心のない層に対して問題があるのではないかというご意見がたくさんあったので、その関心のない層が何を考えているのかではないのですけれども、そこを掘り下げて聞いてみて、何かアプローチの対策ができるかなと思っていたのですけれども。その項目とかが上手く拾えないかなという感じがしたので、そこだけはどうかと思いました。

○中野部会長

関心のない層はアンケートそのものにも答えてもらえないと、なかなか難しいと思いますけれども、何か関心のない層にアプローチする質問というのは、この中で何かありますか。

○事務局

先生おっしゃったように関心のない層はこのアンケート自体も、前は（アンケート回収率が）50%ぐらいなのですね、どちらも。なかなか関心のない方はアドバンスいただけないというのが実情ですが、ひとつはできるだけ（アンケート）回収率を上げて意見を反映していきたいということと、あと回収のあり方をどうみるかというのもあるのですけれども、特に分別できていない方とかですね、あまりアンケートをしてもたくさん出てこないところもあるのですけれども、その方がどういう行動をとっておられるかを中心に分析をしていただくということで意見を汲んでいきたいと思っています。

○中野部会長

④ルールを守らない方と、あと高齢の方がなかなか書いてあることが理解できないということが、割と今日たくさんご意見があったと思いますので、そのことも今後の課題とまたアンケート調査に工夫していただきたいと思います。

○藤原副部会長

アンケート調査の中で、②年齢別の回収率はとっておかれたほうがいいのではないか。それでどの（年齢）層が答えていないか、要は関心がないかというのもわかるので。それはぜひいただけたらと思います。

○中野部会長

案外集計してから、これをちゃんとやっておいたらよかったというのがぼろぼろ出てくるものですから。

では本日の議事はこれで終了したいと思います。先程の資料2の「今後の専門部会の進め方について」にもございましたけれども、来年10月頃に中間とりまとめを行うということで、また一年強の作業となりますが、委員の皆様今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(以上)